

技術的な進化が加速する中、 本来の目的、本質・本物を意識する必要がある

梶浦隆章前社長が残した マルチメディアの考察

昨年、弊社の代表取締役社長、梶浦隆章が永眠いたしました。ここに改めて生前のご厚誼に感謝し心から御礼申し上げます。また昨年より、故梶浦隆章の後任として代表取締役社長に就任いたしました。浅学非才の身ではございますが、今後一層、お客様へのサービスの向上と社業発展に努力致す所存でございますので前社長同様に格別のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。今回の原稿を書く際に、参考になればと前社長が過去に執筆した原稿を改めて読み返してみました。すると近年の教育業界に通ずる、マルチメディアについての考察が見つかりましたので、以下、紹介させていただきます。

【教育産業における指針】

マルチメディアによって関連企業の研究・技術フォーラムが活性化し、その結果、研究開発が促進されています。また、マーケティング経営戦略のための情報交換が活発になって、その質が向上しています。医療の分野においては僻地の医療診断が飛躍的に向上することが期待されています。このようにマルチメディアは、

産業や医療などに大きな影響を与えており、社会は大きく変わりつつあります。しかし、教育分野にどのようなマルチメディアが関わってくるのかということになると、明確な答えは現在のところ見いだせません。なぜならひと口に教育といっても、幼児期教育・義務教育・高等

中央教育研究所 株式会社

梶浦 真平

代表取締役社長



教育・職業能力教育など、様々な階層や領域における教育があり、また基礎から専門といった幅広い教育が行われているからです。教育における本質は、便利さや効率性という機能の面からだけ捉えるのではなく、「人間の能力の育成」という面から取り組まなければなりません。そしてその観点から、マルチメディアを導入する必然性を考えなければなりません。

例えば、大学では専門分野の教育に目的が絞られていますから導入に必然性の高い分野がありますが、小・中学校での教育においては育成範囲は、幅広いうえに人格形成に比重が高く置かれているために、先ほどの「人間の能力の育成」に逆行する側面をもつてしまいます。便利性（利便性・効率化）を追求することは、人間を退化させてしまう可能性があるため、マルチメディアの導入のどのような点に利点・必然性があるかをしっかりとつかんでおく必要があります。

ただ、現在の小・中学校での学習指導を地域環境という視点で捉えれば、遠隔地教育における利用など「格差是正」という点でニーズが発生していることも現実としてあります。また、大学等の高等教育におけるネットワーク化は学ぶ機会の増大や選択の幅の拡大に貢献していることも事実です。

今、新しい学力観として重視されている「思考力・判断力・表現力」の育成との関連において、マルチメディアと学習環境のなかにどのように導入し、どのような形態で活用していくかということが、教育分野における今の最重要課題です。

新たな技術の導入は、本来の目的や本質を見極めて

前社長が20年以上前に考えていた「マルチメディア」に対する課題については、現在の私たちが対面しているIoT化の流れや今後の可能性に近しいものを感じます。環境をよくするために新しい技術を導入することは必要です、必然だと思えます。しかし一方で、導入する目的が本質をついていなければ、表面的な効果にばかり気を取られ、本来目指すべきところとは違う結果を生んでしまうかもしれません。技術的な進化が驚異的なスピードで進むなかで、本来の目的、本質、本物を意識することが求められているのではないのでしょうか。

弊社もIoT時代における教育資材の有効利用の現状・開発、また近い将来に予想される姿を検証しながら、情報の供給・提案ができるよう、社員一丸となって積極的に取り組んでまいります。